

## 令和 3 年度の管理地区（D 地区）における捕獲の実施結果

### 1. 実施方法

文化財保護法に基づく現状変更許可（文化庁許可）及び鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律に基づく許可を得たうえで、加害個体の捕獲による被害軽減を図ることを目的として捕獲を行った。

- ・ 期間：令和 3（2021）年 6 月 1 日～令和 3（2021）年 12 月 14 日
- ・ 捕獲手法：被害地周辺に箱わな、くくりわなを設置
- ・ 捕獲頭数（上限）：全 8 地区で 160 頭
- ・ 捕獲実施者（委託）：一般社団法人 奈良県猟友会

### 2. 実施結果

#### 2.1. 捕獲数

捕獲は、8 地区（精華、田原、東市、帯解、柳生、大柳生、東里、狭川 各地区）の管理地区（D 地区）内で行った（図 1）。

本計画における捕獲上限頭数は 160 頭で、現在、メスが 62 頭、オスが 98 頭、合計 160 頭が捕獲された（表 1）。令和 3（2021）年 12 月 14 日に捕獲上限数に達した。

表 1 雌雄別の捕獲頭数

地区	捕獲頭数		
	オス	メス	計
田原	22	15	37
精華	19	8	27
東市	9	6	15
帯解	1	0	1
東里	14	14	28
柳生	5	5	10
大柳生	18	7	25
狭川	10	7	17
計	98	62	160

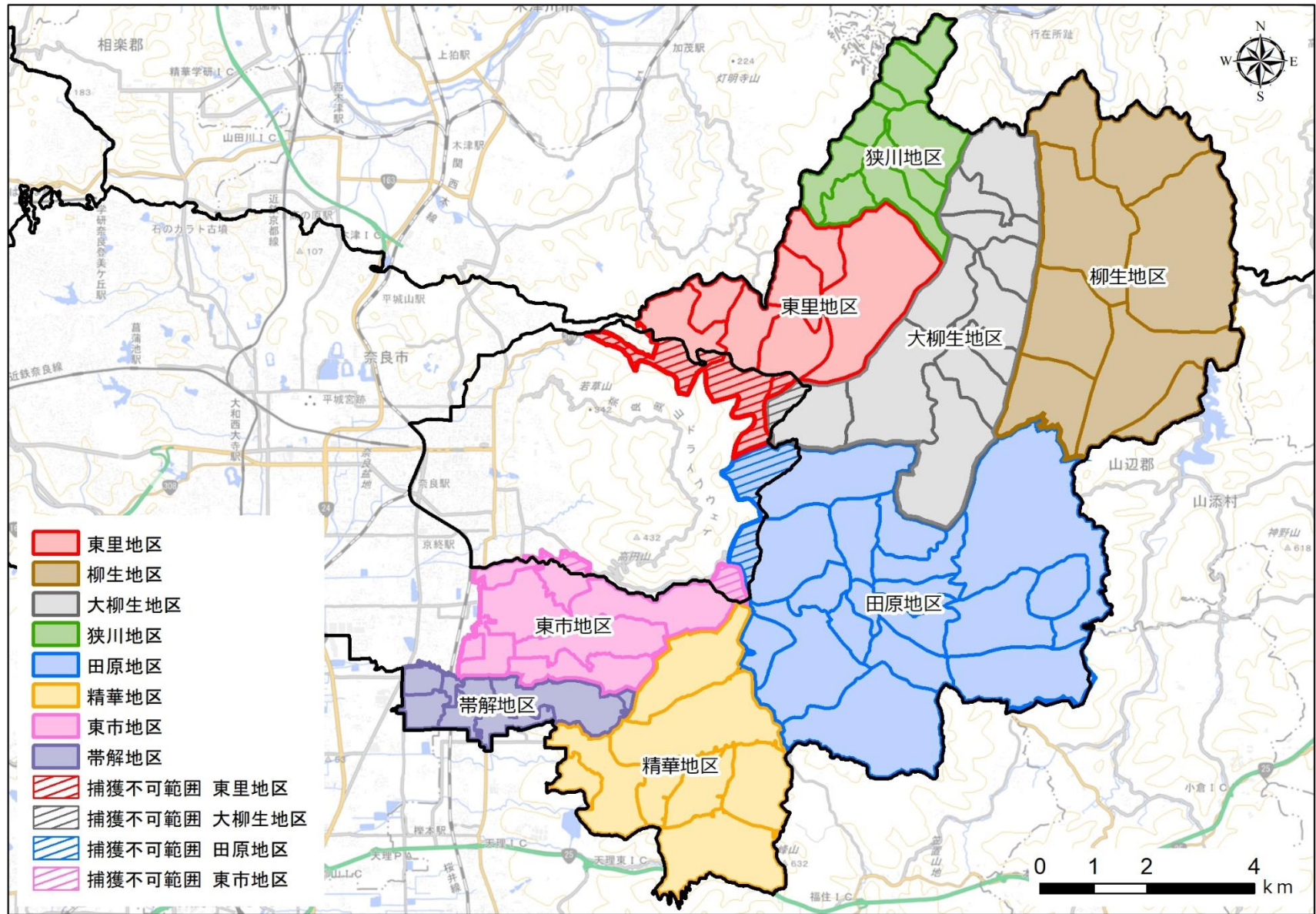


図 1 捕獲実施地区

令和3（2021）年度の最初の捕獲は6月23日で、6月から10月にかけて毎月10頭以上捕獲された。年度により捕獲開始時期が異なるものの、平成30（2018）、令和元（2019）年度は夏季（7月から9月）の捕獲頭数が少ないのに対して、令和2（2020）、令和3（2021）年度は夏季の捕獲頭数が多かった（図2）。

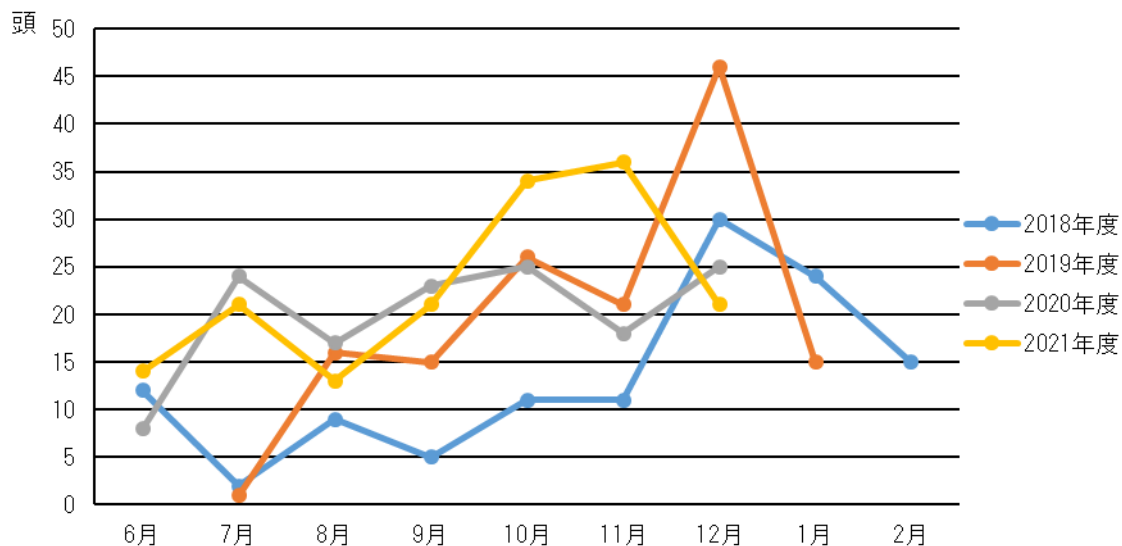


図2 月別の捕獲頭数の推移

## 2.2. CPUE（密度指標）

令和3（2021）年6月1日～令和3（2021）年12月14日を集計対象として、捕獲従事者から収集した捕獲作業の情報（わな管理表：最終頁「参考1」参照）からCPUE※（密度指標）を算出した。

※ CPUE：Catch per unit effort. 単位努力量あたりの捕獲数。ニホンジカでは生息数の指標となることが知られている。 $CPUE = \text{捕獲頭数} / \text{のべわな稼働日数}$

8地区で箱わなは78基、くくりわなは60基設置し、合計160頭捕獲された。各わなについて、わな設置期間及び捕獲数、わな稼働日数（わな基数×設置日数）、CPUEを表2、表3に、各わなのCPUEの推移を図3に示した。なお、令和3（2021）年度の捕獲数160頭のうち2頭はわな近傍のネット柵に絡まっていた個体を捕獲したことからCPUEの計算には入れていない。

令和3（2021）年度のCPUEは、箱わなでは0.0092で令和2（2020）年度及び令和元（2019）年度よりも高く、くくりわなは0.0186で令和2（2020）年度よりも高く、令和元（2019）年度と同程度の値となった。令和元（2019）年度以降、わな管理表の導入により、各わなの設置期間がそれ以前に比べ正確に把握できている。平成30（2018）年度以前は、のべわな稼働日数が過大であった可能性があるため、参考値として記載した。

CPUEは対象地域の生息密度や、捕獲作業時の誘引餌の有無を受けることから、数値の単純な

比較はできないが、参考として他地域の事例を挙げると、本計画対象地の周辺にあたる奈良県北西部（大和郡山市、天理市、大淀町等）における平成 29（2017）年度のわな猟 CPUE は 0.12 であり（奈良県、2021）、兵庫県のある地域における箱わなと囲いわなにおける 1 年間の CPUE は約 0.005（わな 1 基あたり約 1.83 頭（坂田ら、2013）を 365 日稼働したと仮定した場合）であった。これらと比べると、奈良県北西部よりも低く、兵庫県のある地域よりも高い値であった。足くくりわなの CPUE については、大台ヶ原における足くくりわなの CPUE は、0.04~0.24 であった（環境省 2017）。この値と比べると低い値であった。

表 2 対象期間中の箱わなの CPUE

年度	対象期間	捕獲数	のべわな稼働日数	CPUE
R3	R3 年 6 月 1 日~R3 年 12 月 14 日	101	11,038	0.0092
R2	R2 年 6 月 12 日~R2 年 12 月 27 日	112	13,529	0.0083
R1	R1 年 7 月 18 日~R2 年 1 月 20 日	92	11,550	0.0080
H30	H30 年 5 月 31 日~H31 年 3 月 11 日	64	36,079	0.0021
H29	H29 年 7 月 31 日~H30 年 3 月 11 日	19	5,625	0.0034

表 3 対象期間中のくくりわなの CPUE

年度	対象期間	捕獲数	のべわな稼働日数	CPUE
R3	R3 年 6 月 1 日~R3 年 12 月 14 日	57	3,066	0.0186
R2	R2 年 6 月 12 日~R2 年 12 月 27 日	28	3,910	0.0072
R1	R1 年 7 月 18 日~R2 年 1 月 20 日	48	3,322	0.0144
H30	H30 年 5 月 31 日~H31 年 3 月 11 日	45	22,767	0.0020

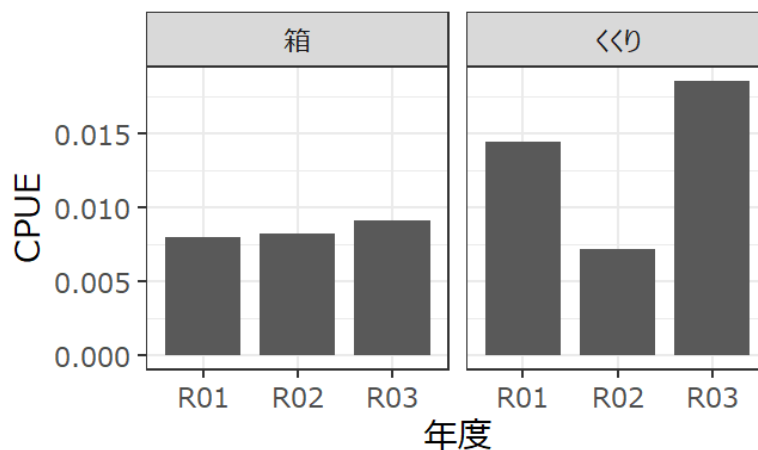


図 3 対象期間中の箱わな及びくくりわなの CPUE

#### 出典

奈良県（2019）奈良県ニホンジカ第二種特定鳥獣管理計画平成 30 年（2018 年）度モニタリング報告書  
 坂田宏志・阿部豪・上田剛平（2013）AI ゲートを用いた囲いわなによるニホンジカ、イノシシの捕獲効率の向上. 第 29 回日本霊長類学会・日本哺乳類学会 2013 年度合同大会. セッション ID: B2-2. P.87.  
 環境省（2017）平成 28 年度大台ヶ原ニホンジカ個体数調整業務報告書

### 3. 捕獲個体調査

捕獲個体数、捕獲位置、捕獲個体の性、外部計測値、体重の記録を行い、捕獲個体から下顎、生殖器を収集した。このうち、性別、年齢区分、栄養状態、妊娠・泌乳状態を分析した。

また、遺伝子解析用サンプルとして筋肉片を採取し、将来分析のための試料として保存した。

令和2年度版 わな管理表

設置位置番号	設置町	わなを設置していた期間		わなの設置数		シカの捕獲	捕獲個体番号	備考	記入者名( )
		開始日	終了日	箱わな	足くりわな				
1	誓多林	8/2	10/30	1		10/10	⑤	10/30に6に移送	
2	誓多林	8/3	9/5		5			9/5に2基を4へ移送	
3	須山	8/7	12/10	1		9/23,12/10	9/23⑥,12/10⑩	12/10に撤去	
4	茗荷	9/5	10/10		2	10/10	⑦	10/10に撤去	
5	誓多林	9/5	1/15		3				
6	誓多林	10/30	1/15	1		11/7	⑧		

設置位置番号は図面と整合するように記入する

設置わなの一部を移設した場合でも、新たな設置位置番号を設ける。  
この記入例の場合は、2基移送、3基そのままなので、移設したものと、そのままのものと分けて記入する。

複数個体捕獲されたわなは、日付と捕獲個体番号を記入する

記入例

わなの移送、撤去に関する情報その他特記事項を記入